

平成30年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	41	学校名	県立麻生高等学校					課程	全日制		学校長名	中島 敏治				
教頭名	宮本 慎一										事務(室)長名	榎 元				
教職員数	教諭	32	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	51
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	94	104	83	117	96	90			273	311	15				

2 目指す学校像

確かな学力、豊かな心、健やかな体などの生きる力を育み、生徒一人一人の自己実現を目指し、全職員が一致協力して教育活動を展開するとともに、常に教育活動全体の改善・充実を図っていく、創意と活力に満ちた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒によるアンケート結果からは、9割以上の生徒が教師の授業の始まりと終わりは時間どおりであると回答している。また、学習に意欲的に取り組んでいる生徒および授業がわかりやすいと感じている生徒は全体の2/3である。近年の傾向として調査週間の家庭学習時間は増加傾向にあるが、日常的な家庭学習時間においては減少傾向にある。授業改善関係では、生徒、教師ともに約2/3が授業で生徒が主体的・対話的に考える時間の設定ができたと回答している。他教師の授業参観については平均値が一学期1.63回から二学期1.31回へと減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による授業での生徒の主体的・対話的に考える時間の設定および考えることの習慣化に向けた仕掛け作り。 日常的な家庭学習習慣の確立。 教師間の積極的な授業参観およびわかる授業の研究と実践。 業務内容の精選による生徒の学力向上に向けた時間の捻出。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進学率77.2%で、四年制大学42.6%、短大5.1%、専修学校29.4%であった。 上位層の生徒で第一志望に合格する生徒が増えてきた。国公立大学合格者はH23年度以来2桁の12名であった。また、希望の大学進学を概ね実現できた。就職希望者は42名のうち公務員に6名、大手企業を含め学力不足での不合格がなかった。 就職内定率は100%を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学希望者だけでなく、生徒の進路実現のために必要な基礎学力の定着をどう図るか。 大学入試・共通テストへの校内での対応をどのように進めるか。 進路意識の早期確立のために適切な手段・行事等の検討。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識が高く、学校全体に学ぶ場としてふさわしい落ち着いた雰囲気形成され、安心安全な学校が確立している。しかし、校外において自律心に欠ける行動が時折見られる。 教室環境の整備が不十分である。 交通ルール及び交通マナーの遵守に不徹底が見られ、登下校時に事故が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護された状況からの自立を促すこと。 保護者や地域と連携を密にし、校外での指導体制をいかにして確立すべきか。 掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓等、教室内の整備を徹底すること。 LHR、SHR及び学年集会等において、交通事故未然防止のための交通安全指導を行う。
特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の球技大会や体育祭等の学校行事に意欲的に取り組む姿が見られ、生徒同士の親睦を深めることができた。 特に運動部では充実した活動が行われており、生徒の身体的精神的成長につながっている。 ボランティア活動等に参加し、地域社会に貢献しようとする生徒が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の様々な活動への積極的な参加をいかに促進すべきか。 生徒による自発的、自主的な取り組みをどう推進するか。

4 中期的目標

1	常に学習指導の工夫改善に努め、主体的・対話的で深い学びを通して、生徒一人一人の学力向上を図る。
2	個別面談を重視し、早期からのきめ細かな進路指導をとおして、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。
3	「道徳」の授業やHR活動の活性化を図るとともに、部活動・生徒会活動等を充実させることで、生徒一人ひとりが人間としての在り方・生き方について自覚を深め、心身ともに健やかな人間に成長できるように努める。
4	健康・安全で活力ある学校生活を送れるように、安全・安心な教育環境の維持向上に努める。
5	地域との連携を進めるとともに、本校の教育活動を積極的に広報することにより、地域から評価される学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
I 学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりに確かな学力を育む	①授業の終始時刻を厳守し、授業時間の確保と適切な指導の強化を図る。 ②基礎的・基本的な知識や技能の習得に努めるとともに、自ら考え、判断、表現、解決する力を養い、確かな学力の定着を図る。 ③生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等に対応して、個に応じた指導の充実に努める。 ④家庭学習の習慣化を図るために、週末課題等を通して各教科で連携し、学習指導の工夫・改善に努める。 ⑤主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業の実践と研究に努めるとともに、教科内で授業参観を積極的に行い、授業の質の向上を図る。
II キャリア教育の推進と情報教育の充実に努め、時代の変化に対応できる能力を育成する	①早期から自分の能力・適性や進路について考え、進路を主体的に選択する能力を育成する。 ②実践的・体験的な活動やキャリアカウンセリングを通して、望ましい勤労観・職業観を養う。 ③生徒一人ひとりの進路希望に応じた個別指導を充実させ、生徒の自己実現を図る。 ④教科指導にICT活用を推進し、学習に対する興味・関心・理解を促す。 ⑤情報モラル教育を充実し、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度を育成する。
III 全ての教育活動を通して、豊かな人間性を培う	①全職員が共通理解と協力の下、家庭、関係機関、諸団体との連携を密にして、生徒指導の充実に努める。 ②決して体罰によることなく、生徒の規範意識や社会性の育成を図るよう、適切に指導する。 ③いじめの防止のための対策を講じ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける。 ④生徒一人ひとりをよく理解し、教師と生徒、生徒相互の信頼感・親密感を深め、情操豊かで調和のとれた人間性を養うことに努める。 ⑤深い感動と感銘を与える指導の工夫と改善に努める。 ⑥教育活動全体を通して、「道徳」教育を推進することで、思いやりの心や助け合いの心及び社会性を育成する。 ⑦郷土・国家、国際社会を理解する教育を推進し、グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意欲を持ったグローバル人材の育成を図る。
IV 健康・安全に留意し、強健な身体と不屈の精神を育てる	①学校教育活動全体を通して体育・スポーツ活動を充実することで体力の向上を図り、わがままを抑え、耐えることのできる強い精神力を涵養する。 ②望ましい部活動の充実に努め、生徒の基礎体力を錬成する。 ③学校保健教育を充実し、健康の保持増進のための自己管理能力を育てる。 ④情操を高める学習環境を目指し、清掃の徹底と美化に努める。 ⑤学校環境の安全点検を強化するとともに、安全教育を実施し、事故の未然防止に努める。交通安全の指導を充実して交通事故の撲滅を目指す。
V 地域から評価され、地域とともにある学校づくりを推進する	①家庭・地域と協働した特色ある学校づくりを推進する。 ②地域の小中学校との連携と協働を進める。 ③教育活動を積極的に情報発信し、地域から評価される学校にする。